

# 令和7年度 京都府医師会勤務医部会 活動報告

## 1. はじめに

勤務医を取り巻く環境は、医療安全対策、研修医・専攻医の指導體制の確保、自らの生涯教育の在り方など、課題が多方面にわたっている。24年4月施行の医師の働き方改革については、各医療機関で「宿日直許可」への対応、救急医療体制の維持、「労働と研鑽」の整理、タスクシフト・タスクシェアの推進など、さまざまな工夫と努力が重ねられて、地域医療提供体制への影響は最小限に抑えられているとみられる。

近年は、医師偏在対策をめぐる議論が一層加速しており、若手医師の養成課程のみならず、医師全体に関わる問題として様々な施策が検討されている。あわせて、医師や看護師等の人材確保は年々困難さを増しており、過重労働の回避と安定的な医療提供体制の両立が大きな課題となっている。

さらに、物価高騰や人件費の増加に伴い、病院経営は一層厳しさを増しており、地域医療を担う医療機関の持続可能性にも深刻な影響が及んでいる。こうした状況は、勤務医の労働環境や医療の質にも直結する問題であり、看過できない課題である。

勤務医部会では、これらの課題に的確に対応すべく、勤務医部会幹事会を活動拠点として継続的な協議を重ね、現場の声を集約している。今後も府医と緊密に連携しながら、必要に応じて行政への提言を行い、地域の医療提供体制が将来にわたり安定して維持されるよう、勤務医の立場から積極的に取り組んでいく。

## 2. 部会員数

京都府医師会勤務医部会は、発足以来41年を迎えた。部会員数、即ち、B・C会員数は、2026年1月1日現在、2,180名（昨年より66名増）で、京都府医師会総会員中、48.4%を勤務医部会員が占めている。しかしながら、依然として全国平均の55.7%（2025年11月1日現在での日医集計による）と比べて低い状況にあり、京都府内に従事する勤務医の約3分の2が医師会に未加入であることを考えると、勤務医の組織率が低い状況にある。

過去8年間の勤務医部会員数の推移

年	勤務医部会会員数	京都府医師会総会員数	割合
2026年	2,180名	4,508名	48.4%
2025年	2,114名	4,471名	47.3%
2024年	2,002名	4,383名	45.7%
2023年	1,993名	4,372名	45.6%
2022年	2,024名	4,400名	46.0%
2021年	2,013名	4,399名	45.7%
2020年	1,962名	4,369名	44.9%
2019年	1,942名	4,367名	44.4%

※基準日：1月1日現在

### 3. 部会役員

松井道宣勤務医部会長のもと、幹事長に白神幸太郎氏、副幹事長には沢田尚久氏、平田学氏、小濱和貴氏、家原知子氏にご就任いただいた。今期の役員は以下のとおり。

なお、任期は府医役員に準じ2027年6月定時代議員会までとなる。

勤務医部会幹事会名簿 (2025年12月31日現在)

部会長	松井 道宣	京都府医師会長／同仁会クリニック
幹事長	白神 幸太郎	京都医療センター
副幹事長	沢田 尚久	京都第一赤十字病院
〃	平田 学	京都第二赤十字病院
〃	小濱 和貴	京都大学医学部附属病院
〃	家原 知子	京都府立医科大学附属病院
幹事	山崎 正貴	京都鞍馬口医療センター
〃	家原 典之	京都市立病院
〃	上田 剛士	洛和会丸太町病院
〃	清水 聡	新京都南病院
〃	永田 一洋	康生会武田病院
〃	木下 浩一	日本バプテスト病院
〃	谷川 徹	北山病院
〃	内田 敦子	内田病院
〃	大久保 和俊	京都桂病院
〃	兼子 裕人	愛生会山科病院
〃	一瀬 増太郎	洛和会音羽病院
〃	馬場 一泰	医仁会武田総合病院
〃	大野 智之	京都済生会病院
〃	岡山 徳成	宇治武田病院
〃	濱田 拓男	六地蔵総合病院
〃	劉 和幸	京都岡本記念病院
〃	石原 潔	京都山城総合医療センター
〃	久保 恭臣	亀岡市立病院
〃	計良 夏哉	京都中部総合医療センター
〃	志賀 浩治	綾部市立病院
〃	阪上 順一	市立福知山市民病院
〃	富士原 正人	京都ルネス病院
〃	加藤 雅之	舞鶴共済病院
〃	酒井 克之	舞鶴医療センター
〃	堅田 和弘	京都府立医科大学附属北部医療センター

#### 4. 幹事会・正副幹事長会の開催

今年度も幹事会を2回、正副幹事長会を1回開催し、今期の事業内容を検討するとともに、総会の運営等について協議した。特に医師偏在対策や人材確保に関する内容について議論を重ねたほか、医師の働き方改革施行後の対応や地域の医療提供体制、各医師のキャリア形成、ワークライフバランスへの観点などについて意見交換した。

開催日	会合名	協議事項
25.9.13	幹事会	(1)令和7年度勤務医部会事業計画について (2)医師の働き方改革について (3)医師偏在対策について (4)令和7年度勤務医部会総会の開催について (5)京都医報『勤務医通信』の執筆依頼について (6)第51回京都医学会について (7)医療政策懇談会について
25.12.13	幹事会	(1)令和7年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の状況について (2)令和7年度(第41回)勤務医部会総会について (3)医療従事者の有料職業紹介事業に関するアンケート調査結果について (4)近畿ブロック勤務医会議(仮称)の開催について (5)令和7年度補正予算案について

#### 5. 勤務医部会設立40周年記念誌の発行

勤務医部会設立40周年の節目を迎え、その記念事業として「40周年記念誌」を作成した。本記念誌の作成にあたっては、勤務医部会のこれまでの歩みを振り返るとともに、今後の活動の指針を示すことを目的として内容を企画した。

目玉企画として実施した座談会では、病院の管理的立場にある医師だけでなく、若手医師や女性医師の参加を得て、多様な立場から勤務医を取り巻く現状や課題、将来への展望について率直な意見交換が行われ、世代や役割を超えた視点を共有できる内容となっている。

その他、2025年度に開催した「設立40周年記念総会」や、2021年に府医が主管した「全国医師会勤務医部会連絡協議会」など、直近10年間の主な活動記録を掲載し、勤務医部会が地域のみならず全国的な議論にも積極的に関与してきた経緯をまとめている。

#### 6. 京都府医師会への入会促進

2016年度より始まった初期研修医の医師会費無料化を受けて、各臨床研修指定病院のご協力のもと、積極的な入会促進を行い、令和7年度新研修医127名の入会を得ることができた。

## 7. 第51回京都医学会への協力

今年51回目となる京都医学会は9月28日(日)に開催。会員の利便性の観点から、全プログラムをライブで配信するとともに、その後1ヶ月間にわたってアーカイブ配信を行った。

今回の特別演題は『超高齢社会を迎えたダイアベティスケア』をテーマに、京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学教授の矢部大介氏にご講演いただいた。

シンポジウムは『高齢者診療でおさえおくべきポイント』をテーマとして、国立長寿医療研究センター理事長の荒井秀典氏を総括者として、国立長寿医療研究センター老年内科／フレイル研究部部長の佐竹昭介氏、市立伊丹病院老年内科部長の伊東範尚氏、神戸大学大学院保健学研究科教授の古和久朋氏、愛知医科大学栄養治療支援センター特任教授の前田圭介氏にそれぞれお話を伺った。

一般演題では、勤務医から51題(初期研修医11題含む)の応募があり、いずれも日常診療に基づいた興味深い取り組みや貴重な症例報告であった。

また、昨年に始まった「専門医会レクチャー」は、自身の専門領域以外の話題についても広く知識を得ることを目的に開催。各専門医会の協力を得て、各専門医会から推薦された講師が最近話題のトピックスを20分間にコンパクトにまとめて発表した。

「Re-1 グランプリ」「臨床研究道場」も引き続き実施。Re-1 グランプリは、若手指導医自身が学び直しを行う企画で、工夫を凝らしたレクチャーとユニークな演出に、会場は所属や世代を超えて盛況であった。オンライン投票による“最もよかったレクチャーを行った指導医”には松井府医会長から「Re:Education Award」が贈られた。

臨床研究道場は、研究や学会発表、論文作成といった学術活動を支援する試みで、研究立案や解析、解釈のポイントについてサポートした。

## 8. 京都医報「勤務医通信」欄への投稿

京都医報内に「勤務医通信」コーナーを設け、幹事の先生方に執筆をお願いしてきた。テーマは執筆者の自由としており、勤務医の生の声として掲載した。

## 9. 全国医師会勤務医部会連絡協議会への参加

11月8日(土)、盛岡市で開催された令和7年度全国医師会勤務医部会連絡協議会(岩手県医師会主管)に平田副幹事長および上田府医副会長、尾池府医理事、事務局が参加した。協議会はメインテーマを「勤務医が生き生きと活躍できる場を作る～混沌を成長の機会に」とし、医師偏在や医療提供体制などについて、フロアからの質疑応答も含めて、活発な議論がなされた。なお、協議会当日には「いわて宣言」が提案、採択された。

## 10. 都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会への参加

5月23日(金)、令和7年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会が開催され、加藤・尾池・松村府医理事、事務局が参加した。

今村日医常任理事からは「医師偏在対策」について、これまでの国の動きと日医の対応について報告がなされたほか、日医勤務医委員会委員で大分大学医学部医師会会長の猪俣雅史氏からは「医師会と大学との協働について」をテーマに医学部医師会設立からこれまでの取り組みが報告された。